

少年育成センター

未成年者の健全育成に向けて

7月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」です。市ではこの時期、「薬物乱用防止」や「未成年者喫煙防止」のキャンペーンを実施し、啓発活動に取り組んでいます。

夏休みは解放感から、不良との深夜徘徊など、危険な誘惑や非行、犯罪被害に遭うこともあります。薬物や飲酒、喫煙、万引きなどに手を染めてから後悔しても遅いのです。家庭や学校、地域で一体となって防いでいきましょう。今回は、改めて「薬物」について考えてみることにしました。

なぜ「薬物乱用」が絶対にダメなのか

- ① 法律で禁止されているから」に加えて、薬物を乱用すると、脳が侵されて、身体もメチャクチャになる。幻覚・妄想、筋肉の衰えなど、発育の妨げになる。
- ② 薬物は、依存性が強いので、自分の意志では止められない。

③ 幻覚・妄想により凶悪な事件を引き起こすこともある。特に未成年者の「薬物乱用」覚せい剤事犯は、数は少ないものの、確実に低年齢化が進んでいます。実際に小学生（県外）の「大麻」使用がありました。

未成年者の「薬物乱用」を防止するためには

- 薬物乱用の危険性は身近にあり自分には関係ないと思わないこと
 - 誘われても、絶対に断る勇気を持つこと
 - 一人で悩まないで相談すること
- 正しい知識を習得し、興味本位や甘い誘惑に負けず、「正しいことを守り抜く勇気」、「甘い誘いに乗らない意志」をしっかりと持つことです。

大人も「薬物乱用」に関心を持とう

薬物乱用防止活動の原点は、正しい知識・情報を得て、啓発・抑止することです。一人ひとりが、薬物乱用に関心を持ち、悩みや困りごとのある青少年に対し、一人で悩まないで相談できる環境を築いておくことも大事です。いざというときに頼りになる大人でありたいものです。

じんけん探訪56

子どもの人権

子どものことに緊張感をもって

5月7日、三豊市PTA連絡協議会は「子どもを大切にすること」のテーマで講演会を行いました。講師の薦田耕作さん（人権教育課指導員）は広島での中学生自殺事件を例に、「絶えず子どものことについてPTAと学校が真剣に議論しあう緊張感がある関係を築くべき」と語りました。また、子どもの貧困問題に触れ、「困難を抱えている子どもの心の中がどうなっているか想像力を働かせてほしい」として寄り添い、子どもの避難場所になってほしい」と、子どもの人権について理解を求めました。

児童虐待が増加

県子ども女性相談センターによると、県が昨年度に対応した児童虐待相談は959件で記録の上では過去最多になりました。被害児の年齢は就学前が42.2%、小学生が34.1%、中学生以上が23.7%です。被害内容は心理的虐待が563件（58.7%）で最も多く、暴力など身体的虐待が242件（25.2%）、育児放棄（ネグレクト）が139件（14.5%）、性

国指定史跡へ「紫雲出山遺跡」発掘調査結果

紫雲出山遺跡は、桜やアジサイの名所として有名な紫雲出山の山頂に広がる遺跡のことです。平野部などと比べて高い位置に集落を営んでいたため、「高地性集落」と呼ばれています。昭和59年には香川県指定史跡となりました。市教育委員会では、平成26年度から「国指定史跡」を目指して発掘調査を行っています。昨年（平成28年）には大きな柱の穴が3カ所見つかかり、高い建物が建っていた可能性が出てきたため、9月に現地説明会を行いました。その後の調査によって、柱の穴と考えて

いた3カ所のうち、1カ所から多くの弥生土器が出土しました。作るときに割れた痕跡が多く、灰や焼けた土も出てきたため、この穴で土器を焼いたか、使わなくなった土器を捨てたかということが考えられます。3つの柱の穴のうち、1つは柱ではなかったかもしれませんが、当時、紫雲出山の山頂に住んでいた人々の生活の一端が分かる貴重な発見となりました。ほかに竪穴住居も見つかったため、確実に約2,000年前の弥生時代には山頂に人が住んでいたことが分かりました。

今後は、これまでの調査成果をまとめた報告書を作成し、早ければ平成30年度に国に申請を行う予定です。7月11日（火）からは詫間町考古館で、平成28年度に出土した土器などを常設展示します。約2,000年前、どうして山頂という不便な場所に人々は住んでいたのか。謎が多い高地性集落ですが、2,000年ぶりに姿を現した土器や石器を見ながら、当時の様子に思いをはせてみませんか？

▼問い合わせ 生涯学習課 ☎73・3135



▲現地説明会を平成28年9月に開催しました



▲平成28年度に紫雲出山遺跡から出土した石のやじり（左）と土器（右）

紫雲出山遺跡発掘調査の出土品を展示します

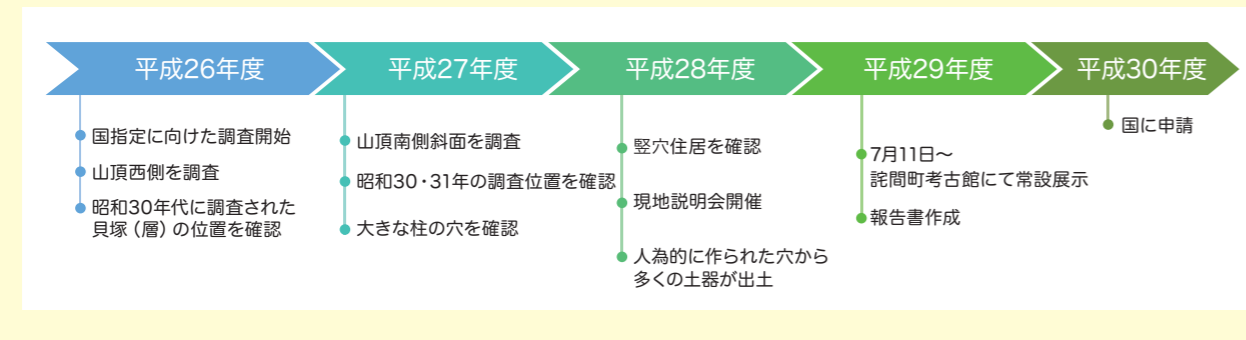
期間 7月11日（火）～12月22日（金）

場所 詫間町考古館

入館料 100円

問い合わせ 詫間町民俗資料館・考古館 ☎83-6858

紫雲出山遺跡 発掘調査の経過と今後の予定



年度	合計	身体的虐待	心理的虐待	育児放棄	性的虐待
2016	959	242	563	139	15
2015	760	219	409	125	7
2014	727	223	369	127	8
2013	551	214	212	121	4
2012	493	207	159	114	13

県子ども女性相談センター

的虐待が15件でした。心理的虐待が急増した背景には、法改正によって子どもの面前で保護者が行う暴力が心理的虐待とされるようになったことが考えられます。通報は警察から564件（58.8%）で最も多く、次が学校・教育委員会等（109件）、福祉事務所（87件）、家族・親戚（65件）、近隣知人（43件）、県など行政機関（42件）です。児童本人も6件ありました。児童虐待防止法では、児童虐待を受けると思われる児童を発見した人が速やかに市町村、都道府県福祉事務所などに通告する義務を課しています（第六条）。通報先 子育て支援課 ☎73・3016または三豊市相談ダイヤル ☎73・3665